

「4 台風が近づいてきたら」

- 学習のねらい：1. 年々勢力を増す台風に対する事前行動計画を立てることができる。
2. 台風から早めに安全に避難するなど、危険回避方法を理解できる。
3. 帰宅困難になった場合の対応について理解できる。

(指導上のポイント)

◆台風は地震と違い予測できる災害であるので事前の準備が大切であることを指導する。

◆台風等から身を守るためには、普段からどのような備えが必要であるかを考えさせる。

例) ・ 気象情報の入手先

- ・ 防災みえ.jp で検索

<http://www.bosaimie.jp/>

- ・ 避難場所の確認
- ・ 家族の連絡先の確認

◆台風が数日中に近づきそうな時に、どのような備えが必要であるかを考えさせる。

例) ・ 最新の情報を入手

- ・ 家の外の備え
(雨戸を閉める、溝の掃除等)
- ・ 家の中の備え
(非常用持出品用意等)
- ・ スマートフォン等の充電
- ・ 懐中電灯等の用意

◆台風が近づいた時に身を守るのに必要なことについて考えさせる。

例) ・ 危険な場所には近づかない

- ・ むやみに外にでない。

◆台風が去った後に、切れた電線や増水した河川に注意が必要であることを指導する。

4 台風が近づいてきたら

(1) 事前の防災行動計画を作成しよう

災害が発生する前から迅速で的確な対応をとるためには、いつ、どのように、何をやるかをあらかじめ明確にしておくことが大切です。台風が発生した場合、あなたが取るべき行動について、書きましょう。

なお、台風の大きさや強さ等によって台風・気象・避難情報が変わる場合があります。

	台風・気象情報 起こりうる自然現象	避難 情報	あなたが取るべき行動
5日前	台風発生 台風上陸の 可能性		自分の場所(自宅)
3日前	高波 暴風 極端波浪 注意報		<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所、避難経路 確認 ・ 防災グッズ用意 ・ 自宅(雨戸、アン テナ等)の確認
1日前	大雨 土砂 災害	R3.6~ 「高齢者 等避難」に 移行 避難準備 警戒開始	<ul style="list-style-type: none"> ・ テレビ等による台 風進路等の確認 ・ 防災行政無線等に よる避難準備情 報確認
半日前	暴風 高潮 洪水	避難準備 警戒情報 はん蒸 警戒情報 はん蒸 危険情報 大雨・暴風・ 高潮・波浪 特別警報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災行政無線等に よる避難勧告の 確認
0時間	災害発生	R3.6~ 「避難指示」 発生 情報一本化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難行動開始 ・ 避難完了
半日後	警報の継続		<ul style="list-style-type: none"> ・ 待機継続 ・ 気象情報を確認

9

(次年度以降の展開例)

- ・ 過去の風水害事例について調査して発表する。
 - ・ 生徒が過去に体験した風水害について発表させる。
- などが考えられる。

(2) 早めに避難行動を取ろう

台風による大雨で川がはん濫しそうなどきなどは、市町長が避難勧告や避難指示(緊急)を発令する場合があります。危険を感じたら早めに避難しましょう。

①あなたの家からは、どこに避難すればよいでしょうか。

例) ○○中学校、○○市民センター

②家族全員が避難するとき、どのようなことに気をつけるべきでしょうか。

祖父母の手を握り、避難所まで誘導する。
妹(弟)を背負う等して一緒に避難する。

③豪雨の最中や夜間に避難することは危険かともないますが、どのような避難が考えられますか。

家の2階へ垂直避難する。
近くの安全な場所に避難する。

(3) 帰宅困難になったら

台風襲来時には、電車が停止するなど交通事情に支障が生じ、普段どおりに帰宅できない場合があります。

県内でも、平成16年9月の台風第21号及び前線による豪雨や平成26年2月の大雪時には、帰宅困難となる生徒がいました。

○下校中に帰宅困難となった場合、あなたはどのような行動をとるべきでしょうか。

- ・ 家族や学校へ電話する。171を利用する
- ・ あわてず正確な情報を入手する。
- ・ 災害時帰宅支援ステーションを利用する。
- ・ 友達などと声を掛け合い、助け合う。

○帰宅困難になった場合に備えて、どのような準備をしておくべきでしょうか。

- ・ 家族防災会議で、連絡手段や集合場所を話し合う。
- ・ 徒歩での帰宅ルートを確認する。
- ・ スマホ充電器、水分、飴等の簡易食料を持ち歩く。

話し合ってみよう!

避難勧告や避難指示(緊急)が発令されても、「大したことにはならないに違いない」、「自分は大丈夫だろう」【これを「正常化の偏見」といいます】と考え避難しない人がいます。その人たちに避難してもらうようにするにはどうしたらいいか市町防災担当者になったつもりで話し合ってみましょう。

10

(議論のポイント)

避難指示が空振りになっても何事もなく無事で良かったと思える雰囲気の醸成 など

【用語解説】正常化の偏見:

人には、自分の身に迫っている危険を、根拠なく過小評価してしまう性質があると言われていきます(正常化の偏見)。

「大した被害はないだろう」「ここまでは来ないだろう」という考えが、避難の機会を奪い、命を危険にさらします。災害からの避難は一刻を争うものなので、「正常化の偏見」を打ち破って、一刻も早く避難を開始することが求められます。

(指導上のポイント)

◆台風や大雨等は気象庁が発表する注意報や警報に注意し、危険が迫る前に避難することが大切であることを指導する。

◆各地域の避難場所を各市町防災担当部署などで確認しておく。また、地域によっては、地震と風水害で避難場所が異なる場合がある。

※県防災対策部 HP「避難所・防災マップ」

http://www.bosaimie.jp/resource/1495426761000/X_MIE_ne000

◆発達段階に応じて、高校生は、災害から自分の身を守るだけでなく、家族や地域社会の人に積極的に貢献することが求められることを理解させる。

◆豪雨や夜間の場合など、避難所までの移動がかえって危険な時は、近隣のより安全な場所へ移動するか、自宅の2階など高い所へ避難することを指導する。

(指導上のポイント)

◆帰宅困難になった場合は、電車等が復旧するまでは不用意に動かず、スマホ等で情報収集しながら、学校など安全な場所で待機するよう指導する。

◆自動車のラジオ等から情報入手できることも指導する。

(確認)

台風に備えて事前行動を行い、早めの避難行動をとる必要があることを理解できたか。